

## 令和3年度 文学部比較文化学科 学校推薦型選抜（一般）講評

### 【出題の意図】

今年度は、課題文1は飯田卓「マダガスカルで考える、文化と無形遺産」（『SYNODOS』2017年5月24日）、課題文2は上原佳久「神様に『汚された』怒る観光客 無病息災願っているのに」（『朝日新聞デジタル』2018年10月21日）を出題した。課題文1と2はともに無形文化遺産に関するものである。課題文1はユネスコ無形文化遺産に登録されたが、本来生活必需品であった文化が登録後どのように変化したのかを、課題文2は本来無病息災を願う儀式であったものが無形遺産として有名になり、観光資源となることでどのような変化が生まれたかを記述したものである。「伝統文化」が「商品化」され「観光化」されることでどのような状況が生じるのか、ユネスコ文化遺産登録が有する意義と問題も含めて考察できるかを問うた。

### 【評価のポイント】

問一ではザフィマニリの木彫りについて「システムとしての文化」「アイコンとしての文化」を取り出し、この両者について文中の言葉を用いつつ的確な要約ができるかを問うた。地域の社会関係や自然環境に照らして無駄のない形で洗練された生活必需品を生み出す文化であった「システムとしての文化」が、特定の消費者の嗜好にかなないエキゾチックな魅力によって文化的他者を惹きつけることで交換価値を持つ「アイコンとしての文化」へと変化したことを的確に理解するのが鍵である。

問二では「課題文を踏まえて」とも書いてあるとおり、主題である「伝統文化」が「商品化」「観光化」されることで生じる変化、ユネスコ無形文化遺産登録が有する意義ばかりでなく問題も含めた指摘が、主題からあまり離れすぎないように注意しつつ論述できるかを問うた。安易に「異文化」への「理解」が共生のためには必要だと抽象的に結論付けるような論述ではなく、主題から離れず説得力のある論述を期待した。

### 【答案の傾向】

問一 要約問題においてはまずキーワードを的確にとりだすことが求められるが、今回は「アイコンとしての文化」「システムとしての文化」をとりだすことが必要である。過半数の解答者は、「システムとしての文化」と「アイコンとしての文化」というふたつのキーワードをあげていたが、それらを正確に論じていた者は多くはなかった。ザフィマニリの木彫りの歴史などのキーワードとは直接関係ない記述が目立った。交換価値、商品化、生活などを的確に結び付けて説明すべきであるが、ながながと文中の話を引用し、最後によりやく二つの文化がでてくる冗長で不要な言葉が含まれている記述が少なからずあった。課題文に出てくる表現は活用されていたものの、それらが意味するところを理解していないような、単語をつなぎあわせたような文章も目立った。数は多くはなかったが、「アイコンとしての文化」「システムとしての文化」をとりだし、交換価値、商品化、生活などを的確に結び付けて説明された答案はあり、高い評価が与えられた。

問二 問一の要約はよく出来ていても、小論文でその意味を十分に踏まえて展開できたものは少なかった。起承転結の展開を意識した解答が多かったものの、自分の狭い経験のなかでの見解

に終始する解答が多く、また課題文の内容から大幅にずれて身近な事例や経験をもとに「こうすべき」と主張する解答も目立った。

観光化されながらも伝統文化を守ることが必要とし、守るための方策を提案するという答案が多かった。ただしその具体策は教育が必要と答える程度でそれ以上の展開をしている答案は少なかった。中には具体例をあげて論じているものがあり、例としてアフリカの民族衣装、中国のナシ族の文化などから金箔、富士山信仰、和食、自らが経験した神楽(神楽甲子園に出場した経験)、鬼剣舞、小学校で催される災害を扱った伝統演劇、酒、祭など、受験生に身近な文化が論述されていた。これらは高評価対象ではあるが、伝統文化はしっかりと守らなければいけないと無難にまとめているものが多く、もう一工夫ほしいところであった。

現地の人々が外部からの観光客に自らの実践を説明すべきだ、理解することが多文化共生の実現を助けるとの論調が目立った。しかし、「説明する」という発想自体が文化変容である。正しい文化のあり方がある、それを普及すべきだという発想自体も、伝統・文化を守るという面では矛盾する主張である。文化が変容することを観光化と誤解しているかのような答案もあった。

SNSによる発信と絡ませて論じる内容もあったが、主題から離れてSNSの使い方というようなずれた論となった小論文は減点した。

原稿用紙の使い方や段落の分け方はおおむね問題はなかった。誤字脱字は減点対象であるが、全体的には少なかった。日頃から手書きで文章を書く機会を意識的に増やしてほしい。中学、高校で学ぶ地理歴史、公民などの学習とともに、ニュースに関心を払って学んでほしい。